

□3月1日説教(隅野徹牧師)短縮版
「過越しが成し遂げられる」(ルカ22:1～20)

今回の箇所を中心は14節から20節までです。これは聖餐式の「式文」の中に出てくる言葉そのものだ、とお気づきになった方も多いと思います。イエス・キリストはエジプトからの救出という、イスラエル民族の救いの記念の食事を更新して、ご自身の十字架の死による罪と死からの救出という、全世界のすべての人が与ることができる記念の食事を制定されたのです。この食事によって、ご自分の血によって罪の裁きから過ぎ越す、つまり救い出すという、神の側の義務がなされるという新しい契約が交わされたのですが、そのことが聖餐式によって確認できるのです。

私達一人ひとりには誰も皆、罪をもっています。その罪を自分で清算することができないのです。聖書には、罪が死をもたらすとはっきり示されています。しかし、イエス・キリストを罪から救う救い主としてはっきりと受け入れ、告白するなら、罪の審判から特別に過ぎ越される…その約束が確かに確認できるのです。

そしてもう一つ19節にある「記念としての聖餐」も心に留めましょう。記念するとは一言でいうなら、思い出すことになろうかと思えます。このあと十字架にかかって死なれるイエスご自身が聖餐の意味として、「わたしが血を流してあなたがたの罪を贖ったことを忘れないで生きていくためだ」と教えて下さっているのです。それだけ私達人間が、忘れやすい生き物であるということをご存じだからでしょう。イエス・キリストを救い主として受け入れたときの決心や、洗礼を受けたときの喜びをずっともっていたいものですが、私たちはそれらを忘れてしまいがちです。しかしそんな、罪深いだけでなく恩知らずな私たちであっても、とことん愛して下さるのが主イエスなのです。

「神の国が来るまで、ふたたびぶどう酒を飲むことはない、過越しの食事をすることはない」と主イエスはおっしゃっています。それは私たちが、この地上で与えられた時間を走り終えた後、永遠の命をいただいて、御国で再び愛の食卓につくのを待っている、というお気持ちの表れです。主イエスはわたしたちが過越しの恵みを受けられる、つまり罪が赦されて、キリストにあって新しい命をいただけるようにと、待っていて下さるのです。(終)